

岩手・宮城県沿岸部の東日本大震災伝承施設を訪ねました。

東日本大震災を伝承し教訓とするという目的は同じですが、その手法や特徴は各施設によって異なり、それが個性ともなっています。人による語り、科学的な見地からの解説、国外への発信、被災状況のダイレクトな伝達、そこにあった海の暮らしの伝承……

2019年現在、福島沿岸部各市町村でも伝承施設の設置が検討されています。これらの施設がネットワークを形成することで、相互の違いを踏まえながら学び合っていけたら、そう感じたリサーチでした。

【その1】

日時 : 2019年11月28日(木) 13:30~15:00
 リサーチ先 : 一般社団法人大船渡津波伝承館
 お話をお聞きした人 : 齊藤賢治氏(一般社団法人大船渡津波伝承館代表理事・館長)

【その2】

日時 : 2019年11月28日(木) 15:30~17:00
 リサーチ先 : 東日本大震災津波伝承館いわてTSUNAMIメモリアル
 お話をお聞きした人 : 齋藤里香氏(東日本大震災津波伝承館いわてTSUNAMIメモリアル上席専門学芸員)

【その3】

日時 : 2019年11月29日(金) 10:00~12:30
 リサーチ先 : 気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館
 お話をお聞きした人 : 福岡麻子氏(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館運営管理担当)

【その4】

日時 : 2019年11月30日(金) 14:00~16:00
 リサーチ先 : リアス・アーク美術館
 お話をお聞きした人 : 山内宏泰氏(リアス・アーク美術館副館長・学芸係長・学芸員)

調査者 : 山口壽道(山の暮らし再生機構理事長/ライフミュージアムネットワーク実行委員会委員)
 筑波匡介(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)
 塚本麻衣子(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)





山の暮らし再生機構理事長 山口壽道

昨年の11月28日(木)・29日(金)の2泊3日、令和元年12月末に計画されていた「ライフミュージアムネットワーク2019オープンディスプレイスキャン」開催準備を兼ねた県外事例調査に同行させて頂きました。12月26日(木)オープンディスプレイスキャン当日に参加できなかったことも踏まえて、備忘録として少し振り返っておきたいと思います。オープンディスプレイスは「東北3県の連携 災害とミュージアム」何を残し、伝えるのか」をテーマとしていました。調査で訪れたのは①大船渡津波伝承館(岩手県大船渡市)②いわてTUNAMIメモリアル(岩手県陸前高田市)③気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館(宮城県気仙沼市)④リアス・アーク美術館(宮城県気仙沼市)の4ミュージアムです。順を追って、訪れたミュージアムの概要を記します。

まず、大船渡津波伝承館ですが、東日本大震災から2年目の平成25年3月11日に仮オープンでスタートしています。当初は被災しなかった内陸にある「さいとう製菓(株)工場」の一部を間借りして開館。そこで津波襲来時の映像や津波前や後の写真などをと、津波の被災経験を持つ語り部さんたちが、避難の様子、助かった理由などを来館者に話していました。つまり、大船渡津波伝承館は、ミュージアムとしての施設整備を第一義としてはいません。「一般社団法人 大船渡津波伝承館」の代表である齊藤賢治さんと、趣旨に賛同した語り部の皆さんが、救えたはずの「多くの命」があったことを来訪者に伝えていくという実にシブシブな形態で活動を続けています。私たちが齊藤

さんを訪ねた時は、「大船渡市防災観光交流センター」(複合施設)の一室を使つての語りだったります。しかし、そこでお聞きした齊藤さんの話は、大船渡を襲った津波被害の全容から、日本でも有数の漁港である大船渡の歴史が紐解かれ、その海の恵みとともに生活を営んできた人々の生き様に及びました。時に強い口調で、過去の津波災害からの学びを活かせなかったことを叱責し、人が自然と向き合い恵みを享受しようとするとき、そこには自然に対する敬虔な想いがなくてはならないと語られました。

次に訪問したのは、陸前高田市に建設された「東日本大震災津波伝承館」いわてTUNAMIメモリアル」です。この施設は、現在、整備が進められている「高田松原津波復興祈念公園」内にあります。東日本大震災津波復興祈念公園は、岩手県・宮城県・福島県の3県に整備されることが閣議決定され、国が国営追悼・祈念施設を、当該県・市町村が公園整備を進めています。ここ高田松原にある「東日本大震災津波伝承館」いわてTUNAMIメモリアル」は、「いのちを守り、海と大地とともに生きる」をテーマとして掲げ、多くの来館者に震災津波の破壊力や脅威を実感し、津波を自分事として捉え、命を守るための「体験」「教訓」を学べる内容となっています。その手法は科学的根拠を以って、パネルや映像など多様なツールで展示・構成されています。その情報量は圧倒的ですからあります。館内の展示物も「日本語」「英語」「中国語」など多言語で表記され、視察案内も多言語対応しています。加えて、国と陸前

高田市で整備する「道の駅・高田松原」と一体的に整備を進めていることもあり、「伝承」だけではなく、これからの復興プロセスにおいて、地域にとって極めて重要な地域活性化という側面も担って運営されていくこととなります。まだ開館して間もない施設であり、これからのチャレンジと思われるが、施設運営に「高田松原」で暮らし続けるはずの地域住民の顔が見えないのが気になりました。

2日目は、「気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館」から訪問しました。ここ気仙沼市の東日本大震災遺構・伝承館は、震災遺構として保存を決定した「気仙沼向洋高校旧校舎」を、被災直後のまま保存整備したものであり、内部でも当時の姿を観ることが出来ます。震災伝承館では、映像や写真、パネルにより被災の様子を伝え、復旧・復興についてはデジタルサイネージを活用して紹介されています。将来にわたって東日本大震災の記憶と教訓を伝え、警鐘を鳴らし続ける「生きた証」である震災遺構と、防災・減災教育の拠点として整備された震災伝承館は一体的に観ることが出来ます。加えて、語り部ガイドや防災・減災体験プログラムを実施していることから、来訪者・来館者の防災意識の向上に寄与するミュージアムとして成立しています。担当者からは、「震災から9年の歳月を経過した今、子どもたちの成長と同じくらの速さ、いや、それより速いスピードで震災の記憶の風化が進んでいるのではないか」とお聞きしました。伝承館に隣接する階上中学校の生徒も一緒に語り部を務める活動を展開されています

が、その伝承活動が多世代で、かつ、気仙沼全体の運動となるとき、このミュージアムの神髄が発揮されるだろうと予感しました。

最後に訪れたのは、「リアス・アーク美術館」です。ここでは、「東日本大震災をいかに表現するか、地域の未来の為にどう活かしていくか」をテーマに「東日本大震災の記録と津波の災害史」が常設展示されています。展示資料は、リアス・アーク美術館の学芸員が被災現場で撮影した写真203点、収集した被災物155点、歴史資料等137点です(リアス・アーク美術館資料より)。「頂いた「パンフレット」からの引用になりますが、「はじめに」の文章を原文のまま書き留めます。

○東日本大震災及び大津波によってもたらされた、気仙沼市、南三陸町への災害被害の実態を記録、調査し、それらを復旧、復興活動において有効に活用できるように取りまとめること。

○今後も想定される地震、津波災害に向けて、防災教育や減災教育のための資料として活用可能なように震災被害の実態を取りまとめること。

○東日本大震災という重大な出来事を、地域の重要な歴史、文化的記憶として後世に伝えるとともに、日本国内、あるいは世界で行われている災害対策事業等への具体的な資料提供を行うこと。

常設展示を観覧したあと、あらためて「反省とは未来を考えることではないか」という、リアス・アーク美術館の問いかけが身に染みしました。

オープンデイスカッション「災害とミュージアム」に先立ち、震災遺構仙台市立荒浜小学校、荒浜地区住宅基礎を、仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室の柳谷理紗さんにご案内いただきました。

荒浜小学校は2階まで津波が押し寄せましたが、児童や教職員、地域住民ら320人らが避難し難を逃れました。1階・2階は津波の傷痕をそのまま残し、パネル等とともに津波の脅威を生々しく伝えていきます。また4階では、荒浜地区の歴史や文化、荒浜小学校の思い出を紹介。屋上からは荒浜地区を一望することができます。

荒野の中の住宅基礎遺構は、津波の威力とともに、9年という時間の経過も伝えます。時とともに風化していく遺構の保全が課題だとお聞きました。

いずれも、津波被災の伝承だけではなく、かつてここにあった「くらし」を強く喚起する遺構でした。



日時：2019年12月26日(木) 10:00~12:00
 リサーチ先：震災遺構仙台市立荒浜小学校、震災遺構仙台市荒浜地区住宅基礎
 お話しをお聞きした人：柳谷理紗氏(仙台市まちづくり政策局防災環境都市・震災復興室主任)

調査者：齋藤里香氏(東日本大震災津波伝承館いわてTSUNAMIメモリアル上席専門学芸員)
 佐藤克美氏(気仙沼市東日本大震災遺構・伝承館館長)
 瀬戸真之氏(公益財団法人福島イノベーションコースト構想推進機構主任学芸員)
 川延安直(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)
 小林めぐみ(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)
 筑波匡介(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)
 塚本麻衣子(福島県立博物館学芸員/ライフミュージアムネットワーク実行委員会事務局)

